



令和2年5月25日

第51回 国際物理オリンピック (IPhO2020) リトアニア大会の中止 および日本代表選手の認定について

公益社団法人 物理オリンピック日本委員会
理事長 長谷川 修司

5月22日に、国際物理オリンピック(International Physics Olympiad, IPhO)本部および今年の開催国であるリトアニア共和国の組織委員会は、新型コロナウイルス感染症の伝染拡大のため、第51回国際物理オリンピック IPhO2020(期間:2020年7月18日~26日 開催国:リトアニア共和国)を中止することを発表しました。

それにともない、公益社団法人物理オリンピック日本委員会(Japan Physics Olympiad, JPhO)は、IPhO2020に派遣する下記の日代表選手5名を決定して派遣に向けた準備をして参りましたが、残念ながら派遣を取り止めることといたします。ただし、その5名は、派遣されませんでした。IPhO2020日本代表選手と認定し、JPhOの記録に残します。

国際物理オリンピックは、中等教育レベルの物理に関する国際的なコンテストです。全世界の80前後の国・地域から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、国際的な交流を通じて参加国における物理教育が一層発展することを目的として、1967年以来ほぼ毎年開催されています。わが国は2006年、第37回国際物理オリンピック IPhO2006 シンガポール大会に初めて日本代表選手5名を派遣し、以来毎年参加し、メダルを獲得しています。2019年の第50回国際物理オリンピック IPhO2019 イスラエル大会での成績は、金メダル1名、銀メダル4名でした(別紙参考資料をご参照ください)。

今回日本代表選手となった下記の5名の選考過程は以下の通りです。

第15回全国物理コンテスト・物理チャレンジ2019(応募者1,388名)の「第1チャレンジ」(予選)で課せられた理論コンテストおよび実験課題レポートの総合成績によって選抜された100名が、昨年8月に東京理科大学野田キャンパス(千葉県)で開催した「第2チャレンジ」(本選)に臨み、その中で優秀な成績を収めた高校2年生以下の12名が日本代表候補者として選抜されました。

日本代表候補者には、昨年9月に開催した「秋合宿」において国際物理オリンピックに向けた訓練のガイダンスと実践的基礎学習を行ったのち、インターネットを利用した「理論問題・実験データ解析演習の通信添削」、12月末には実験実習を主体とした「冬合宿」、さらに今年3月末には最終選考を兼ねた「春合宿」で下記の日代表選手5名を決定しました。その後もIPhO2020本番に向けた研修を続行していましたが、残念ながら派遣中止となってしまいました。

第51回国際物理オリンピック (IPhO2020) 日本代表選手

氏名(50音順)	性別	学校名(所在地)	学年
小野 祐	男	甲陽学院高等学校(兵庫県)	3年生
北川 陽斗	男	滝高等学校(愛知県)	3年生
佐々木 保昂	男	東大寺学園高等学校(奈良県)	3年生
辻 圭汰	男	岐阜県立岐阜高等学校(岐阜県)	3年生
平石 雄大	男	海陽中等教育学校(愛知県)	3年生

IPhO本部からの情報によると、来年のIPhO2021は、今年開催予定だったリトアニア共和国で開催することです。そのIPhO2021に向けた日本代表候補者選考を兼ねる国内コンテスト、第16回全国物理コンテ

公益社団法人 物理オリンピック日本委員会 プレスリリース

ト・物理チャレンジ 2020 の申込がすでに始まっており、7月 12 日に「第1チャレンジ」(予選)の理論コンテストが開催され、「第2チャレンジ」(本選)は、本年9月 20 日に全国数か所の会場で分散開催される予定です。新型コロナウイルスの感染防止のため、例年と違った形式での開催となります。詳しくは、JPhO ホームページをご参照ください。

なお、IPhO 本部は、IPhO2020 リトアニア大会が 2021 年に繰り延べになったことに伴い、その後の開催予定が 1 年ずつ繰り延べになり、2022 年がベラルーシ大会、2023 年が日本大会となることも併せて発表しました。IPhO2023 日本大会の準備は、一般社団法人国際物理オリンピック 2022 協会（会長 小林誠、<https://ipho2022.jp/>）で進められています。

<問い合わせ先> 公益社団法人 物理オリンピック日本委員会 事務局 菊池 祥子
東京都新宿区神楽坂 1-3 東京理科大学内
TEL 03-5228-7406 FAX 03-3268-2345 info@jpho.jp <http://www.jpho.jp>

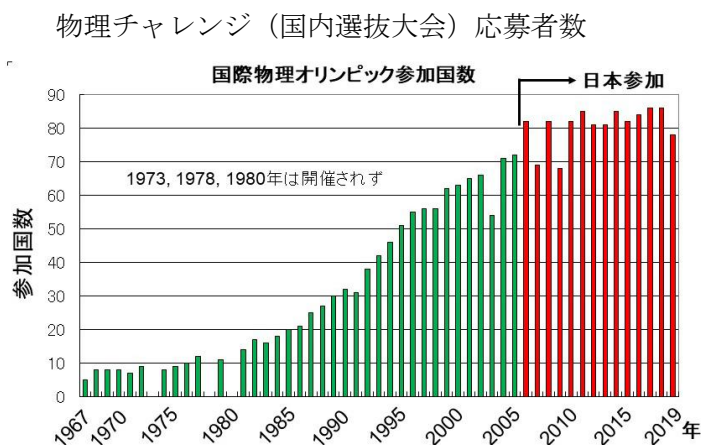
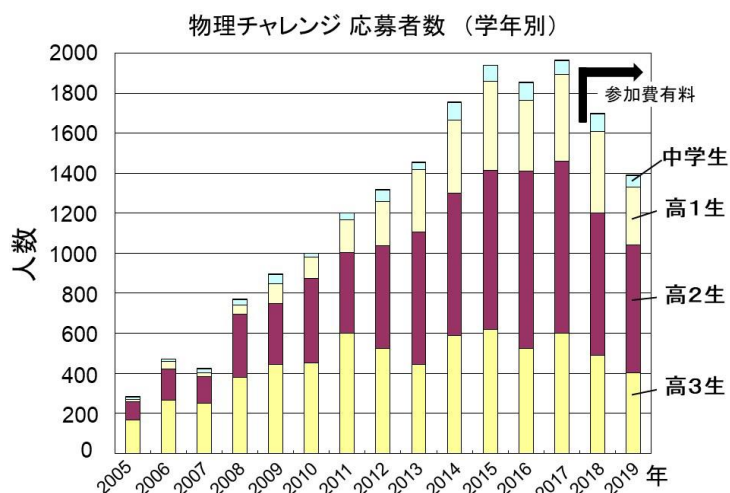
国際物理オリンピックについて

国際物理オリンピックの参加資格は、20歳未満で大学・短期大学などの高等教育を受けていない生徒たちです。各国で選抜された最大5名の代表選手たちが、大学・高校教員からなる大会日本役員（リーダー、オブザーバ）とともに参加します。約10日間という長い会期のあいだ、選手は理論コンテストと実験コンテストにそれぞれ5時間をかけて挑戦するほか、他国からの参加者や主催者と国際的な交流を深めることができるように構成されています。役員たちは問題の翻訳や採点交渉などを行います。

近年の開催国／都市は、2006年 シンガポール、2007年 イラン／イスファハン、2008年 ベトナム／ハノイ、2009年 メキシコ／メダ、2010年 クロアチア／ザグレブ、2011年 タイ／バンコク、2012年 エストニア／タリン、2013年 デンマーク／コペンハーゲン、2014年 カザフスタン／アスタナ、2015年 インド／ムンバイ、2016年 スイス・リヒテンシュタイン／チューリッヒ、2017年 インドネシア／ジョグジャカルタ、2018年 ポルトガル／リスボン、2019年 イスラエル／テルアビブでした。2020年が中止となり、今後の予定は、2021年 リトアニア、2022年 ベラルーシ、2023年 日本の開催となっています。

公益社団法人 物理オリンピック日本委員会について

公益社団法人 物理オリンピック日本委員会 (JPhO) は、全国物理コンテスト「物理チャレンジ」を開催し、そこから国際物理オリンピックに派遣する日本代表選手を選抜し、さらに選手を訓練して国際大会に派遣することを主たる事業としています。この事業は、物理関連学会や、全国の大学、地方公共団体、研究所、多数の企業等のご支援とともに、(国研) 科学技術振興機構を通じて国の支援を得て継続しております。本法人は、我が国の高中生・中学生の間に、広く物理に対する興味・関心を喚起するために、全国各地で高校生・中学生、それに中学校および高校の先生方を対象としたプレチャレンジ等の普及啓発活動も広く行っています。



国際物理オリンピック (IPhO) 参加国数

国際物理オリンピックでの日本選手団の成績

第50回 イスラエル大会 (2019年)	金 銀 銀 銀 銀
第49回 ポルトガル大会 (2018年)	金 銀 銀 銀 銀
第48回 インドネシア大会 (2017年)	金 金 銀 銀 銀
第47回 スイス・リヒテンシュタイン大会 (2016年)	金 金 金 銀 銅
第46回 インド大会 (2015年)	金 銀 銀 銅 銅
第45回 カザフスタン大会 (2014年)	銀 銀 銀 銀 銅
第44回 デンマーク大会 (2013年)	銀 銀 銅 銅 銅
第43回 エストニア大会 (2012年)	金 金 銀 銀 銀
第42回 タイ大会 (2011年)	金 金 金 銀 銀
第41回 クロアチア大会 (2010年)	銀 銅 銅 銅 入賞
第40回 メキシコ大会 (2009年)	金 金 銀 銅 銅
第39回 ベトナム大会 (2008年)	金 銀 銅 入賞 入賞
第38回 イラン大会 (2007年)	金 金 銀 銀 銅
第37回 シンガポール大会 (2006年)	銀 銅 銅 銅 入賞

IPhO での日本代表選手の成績